

日常的に取り組む授業改善

八頭町立八東中学校



八東中学校では、『聞く力を伸ばし、思考力を高めるために、学び合い活動を取り入れた学習』を授業づくりの柱にして、教師一人一人が実際の授業の中で、具体的な課題を明確にししながら、日々の授業改善に取り組んでいます。県のスーパーバイザーである広島大学大学院木下博義准教授の助言を受けてアクション・リサーチを取り入れ、生徒の姿を通して自らの実践を振り返ることでよりよい授業をめざしています。

校内研究の方向性

人とかかわり合いの中で、主体的に学ぶ生徒を育成することをめざし、各教科での協同的な学びと総合的な学習の時間の探究的な学びとのつながりを意識した授業づくりに取り組んでいます。

その中で、一人一人の教師が授業改善に取り組む手法として、アクション・リサーチを取り入れて実践しています。

国語の研究授業では学習目標と振り返りの整合を意識して『高瀬舟』の単元に取り組みました。

冬休みに2学期の実践の検証を全職員で行い、成果について話し合いました。

授業づくりは学校づくり



アクション・リサーチとは…

教師がめざす生徒像の実現に向けて授業実践の中で、生徒の実態から問題点を取り上げ、分析し、問題解決の方策を見通しながら、計画的に改善に取り組む方法です。

普段行っている授業の工夫や改善の方法をリサーチペーパーに書き留めることで、各教科の特性や教師一人一人の思いを生かした実践が可能になります。

以下の4段階で行う。

- ①仮説を立てる
- ②検証方法を考える
- ③実践を行う
- ④検証結果をまとめる

研究の成果

全職員で学校の課題を共通理解して授業改善に取り組んだことで、めざす実践の方向性が一つになりました。また、生徒の姿を通して自らの実践を振り返り、リサーチペーパーを保存することで教育実践のポートフォリオができ、指導のPDCAを進めることができました。

こんな点が効果的です

学校の重点目標を意識し、自分の授業への省察とそれに基づく実践を繰り返すことで、学校がめざす授業づくりにつながっていきます。また、実践を的確に検証するために個々が評価規準を設定することで、目標の達成を見取る力がついていきます。

八東中学校の取組の詳細は、1月22日(土)に鳥取県教育センターで開催される『教育セミナー』で発表されます。

リサーチペーパーの例(八東中学校の使用例)

対象・単元	学年・組 第2学年 A・B組 生徒 36名 単元名 New Horizon English Course 2 Let's Read "A Magic Box"		
テーマ	教師の朗読により、繰り返し英文を聴くことで英文への習熟を高める指		
問題 (生徒の実態)	英語の授業で、「聞く力を伸ばし、思考力を高める」には、英文を理解 について考える力を高めることが必要だと考える。英文を理解する力を め、授業で教科書本文の音読と暗唱に取り組んでいる。1年の教科書本文、本文 が全て対話文で、一文が短く、音読から暗唱へは比較的楽にできていた。しかし、		
リサーチ・ クエスチョン	どうすれば教科書の文章量が多くなる中で、英文の習熟度を高めることができるだろうか。		
	仮説	検証方法	実践
	音読から暗唱へと移行させるためには、英文	①授業で、ペアで行うリ ーディング・チェック	教科書の読解指導を3 段階分けて行った。 英文のキート
	のものを多量に用意する	で3回ペースアップ	だが、2学期は平均3.4
成果 (研究全体を通 しての成果)	スタッフの準備時間は、1人1人が長くならなかった。振り返りにより、 やりやすくなったと感嘆の効果があつた生徒は5人だった。多くの生徒には、「英文の読みが分かった」、「音 読がやりやすくなった」という暗唱への間接的な効果であった。教師の朗読は何も効果はなかったと答えた のはわずか3人中3人であった。このことから、生徒が英文の読解をしている時に、教師の朗読を聞かせる ことは英文の習熟に効果があると推察される。		
課題 (ARから明らか になった 次の課題)	同じアンケートで、33人中31人(94%)の生徒が音読はできると答えている。しかし、暗唱ができると答 えた生徒は10人(30%)である。できない理由(複数回答可)は、「単語は覚えられが、文になると覚えら れない」が23人中17人(74%)、次に、「朗読の音質はできるが、覚えられない」と「英文の意味がうまく 読み取れないので暗唱することができない」が同じ3人ずつ(15%)であった。このことから、次の課題は、 音ではなく、英文の構造に習熟させることである。		